

令和2年9月宮崎県定例県議会

# スポーツ振興対策特別委員会会議録

令和2年9月23日

場 所 第4委員会室

令和2年9月23日（水曜日）

午前9時59分開会

教 育 次 長 (教育振興担当)	黒 木 貴
教 育 政 策 課 長	川 北 正 文
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	押 川 幸 廣

会議に付した案件

○概要説明

福祉保健部、教育委員会

1. スポーツの振興に向けた取組について

○協議事項

1. 県内調査について
2. 次回委員会について
3. その他

福祉保健部

長 寿 介 護 課 長	佐 藤 彰 宣
障 が い 福 祉 課 長	重 盛 俊 郎

事務局職員出席者

政策調査課主任主事	田 中 孝 樹
政策調査課主査	持 永 展 孝

出席委員（12人）

委 員 長	窪 菌 辰 也
副 委 員 長	河 野 哲 也
委 員	星 原 透
委 員	横 田 照 夫
委 員	日 高 博 之
委 員	日 高 陽 一
委 員	脇 谷 のりこ
委 員	安 田 厚 生
委 員	高 橋 透
委 員	渡 辺 創
委 員	来 住 一 人
委 員	岡 師 博 規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

教 育 長	日 隈 俊 郎
副 教 育 長	黒 木 淳 一 郎
教 育 次 長 (教育政策担当)	工 藤 康 成

○窪菌委員長 それでは、ただいまからスポーツ振興対策特別委員会を開会いたします。

今日の日程でございますけれども、本日は福祉保健部、教育委員会からスポーツ振興に向けた取組について説明をいただきたいと思ひます。その後、委員会の県内調査等について御協議いただきたいと思ひますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのように決定いたします。

では、執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時0分休憩

午前10時1分再開

○窪菌委員長 それでは、委員会を再開いたします。

本日は、福祉保健部、教育委員会においでいただきしております。

執行部の皆さんの御紹介につきましては、お手元に配付してございます出席者配席表にかえ

させていただきたいと存じます。

それでは、概要説明をお願いいたします。

**○日隈教育長** おはようございます。教育長の日隈でございます。本日は、教育委員会と福祉保健部の関係課で出席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様には、日ごろより、教育、そして、スポーツ、また、障がい福祉に関しまして、御指導、御鞭撻をいただいておりますことを、まず、御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

座って説明させていただきます。

お手元にお配りしておりますスポーツ振興対策特別委員会資料の表紙、下のほうを見ていただきますと、本日は特別委員会から御指示のありましたスポーツの振興に向けた取組について、御説明させていただきます。

私のほうからは以上でございますけれども、内容につきましては、引き続き担当課長よりそれぞれ説明いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**○押川スポーツ振興課長** それでは、早速資料に沿いまして御説明をさせていただきます。

資料の1ページをお開きください。

スポーツ振興課からは、児童・生徒のスポーツの振興に向けた取組、それから、生涯スポーツの振興に向けた取組についてということで、2つの大きな項目で御説明をさせていただきます。

それでは、資料の1ページにお戻りいただきまして、まず、1、幼児等にかかる指導者養成としまして、2つの研修会を実施しております。

(1)にあります学校体育授業力ジャンプアップセミナーですけれども、スポーツ庁が実施しております研修会に本県から受講生を派遣しま

して、その派遣された受講生が講師となりまして、県内の認定こども園の教諭などを対象として講習会を実施しているものでございます。昨年度の実績としましては、131名が受講をしております。

次、(2) 幼児教育指導者研修会では、認定こども園の教諭などを対象とした、主に運動遊び、それから、水遊びの研修会を実施し、幼児等にかかる指導者の養成を図っているところでございます。昨年度の実績としまして、188名が参加をしております。

続きまして、大きな項目2、小・中学校体育授業の充実支援としまして、5つの事業等を実施しております。

(1) ですけれども、体育振興指導教員等の派遣でありますけれども、体育授業の充実と教諭等の指導力向上を図ることを目的に、専門的な知識や技能を持つ体育振興指導教員等\*20名を小学校高学年の陸上運動などの授業の指導者として派遣をしているものでございます。昨年度は32校へ派遣をしております。

(2) 小学校体育専科教員の配置であります。小学校体育授業の充実と指導者の指導力向上を目的として、県内3校をモデル校としまして、各モデル校に1名ずつ配置し、自校での体育授業を中心に指導を行っていただくとともに、近隣校への派遣や授業公開等を実施しているところでございます。昨年度、モデル校3校の授業公開には169名の先生方が参加をしております。

(3) 小学校体育活動推進校の指定であります。3地区の小学校を推進校として指定しまして、児童の体力向上や健康増進及び生涯にわたってスポーツに親しむための基礎づくりとな

※7ページに訂正発言あり

る取組を実施しております。昨年度の実績としましては、小学校3校、東郷小学校、三股小学校、門川小学校の3校を指定したところでございます。

（4）キッズスポーツ教室ですけれども、県小学校体育連盟に委託をしまして、県内14地区で陸上教室、水泳教室、器械運動教室等を開催しているところでございます。

次に、（5）の学校体育実技サポーターの派遣でありますけれども、体育授業の充実と教諭等の指導力向上を図ることを目的に、中学校の武道及びダンス、小学校の陸上運動系、また、器械運動系の授業に専門的な技能を有する外部人材を派遣しております。昨年度は、38校、39名の外部指導者を派遣しているところでございます。

続きまして、大きい項目3、その他の研修会ですけれども、この内容としまして、5つの研修会を実施しております。

（1）学校体育授業カススキルアップセミナーですけれども、本県の小学生の体力の課題であります、握力と投力を主にしまして、そこの改善につながるような指導につかまして、小学校の教諭等を対象に、ゲーム・ボール運動と器械運動の研修会を実施しているところでございます。本事業は令和元年度からの新規事業でありまして、昨年度は14名が参加をしております。

（2）の地区体育科・保健体育科授業カステップアップセミナーでは、小学校の教諭等を対象に、児童の体力向上を図るための指導法を習得し、体育学習を効果的に展開するための指導者の資質向上を目的として研修会を実施しております。昨年度は、県内9会場で225名が参加をしております。

（3）学校体育授業カジャンプアップセミナー

一ですけれども、中学校の教諭等を対象に、武道の授業の進め方についての研修会を実施するとともに、安全に配慮した学習指導方法の改善及び充実を目的として研修会を実施しております。昨年度は36名が参加をしているところでございます。

（4）運動部活動顧問研修会ですけれども、中学校の教諭等を対象に、優れた指導実績を持つ県内指導者を講師としまして、2ないし3競技の運動部活動における研修会を実施しております。昨年度は、軟式野球、剣道、バスケットボールの3つの指導者53名が参加をしているところでございます。

（5）運動部活動外部指導者研修会ですけれども、中学校及び高等学校の運動部活動の指導に携わる外部指導者を対象としまして、運動部活動のあり方についての研修会を実施しております。昨年度は148名の参加となっております。

以上が、児童生徒のスポーツの振興に向けた取組についての説明でございます。

続きまして、3ページをお開きください。

生涯スポーツの振興に向けた取組について御説明をさせていただきます。

大きい項目1番、総合型地域スポーツクラブの育成・支援に向けた取組ですけれども、主に3つの取組を行っております。

（1）ですけれども、クラブや市町村訪問の実施であります。クラブ運営に対する支援やクラブ育成に向けた支援を目的に、クラブや市町村の担当者を直接訪問しております。昨年度は延べ56クラブ、県内全26市町村を訪問し、協議や相談等を実施したところでございます。

（2）指導者の資質向上を図る研修会の実施ですけれども、クラブ連絡会議やスポーツ習慣化促進研修会など、クラブの活性化等を目的と

したクラブ関係者の資質向上を図るための会議や研修会を実施しております。

（3）スポーツを通じた地域の課題解決に向けたモデル事業の実施であります。平成30年度より都城市をモデル地区としまして、運動、スポーツの実施率の向上を目指し、クラブ間の連携事業や各クラブの事業を実施したところがあります。これらの取組を通しまして、地域スポーツの振興に向けたクラブの育成や活性化を図るための支援を実施したところでございます。

続きまして、大きい項目2、ウォーキングスマートフォンアプリ、SALKOの普及啓発を図る取組としまして、主に4つの取組を行っているところでございます。

（1）ですけれども、利用促進キャンペーンの実施としまして、10月と2月の年2回、SALKOの利用促進キャンペーンを実施し、SALKOの普及啓発活動に取り組んだところでございます。

続きまして、（2）SALKO利用促進事業の実施では、本年度からの事業ですけれども、市町村や企業、総合型地域スポーツクラブを対象に8団体に委託し、SALKOを利用したウォーキングイベント等を通してSALKOの普及啓発活動に取り組んでいるところでございます。

（3）のSALKOの広報活動ですけれども、MRT企業対抗運動会における広報活動や教育番組における広報活動など、スポーツイベントやテレビ番組等を通してSALKOの普及啓発活動に取り組んでいるところでございます。

（4）市町村等との連携ですけれども、市町村や総合型地域スポーツクラブが実施しますウォーキングイベント等の情報をSALKOに掲載するなど、SALKOを活用した支援を行っているところでございます。

これらの取組を通しまして、ウォーキングスマートフォンアプリSALKOの利用促進やウォーキングを中心としたスポーツ習慣化を推進しているところでございます。

続きまして、大きい項目3、1130県民運動の推進に向けた取組としまして、主に3つの取組を行っております。

（1）の自主イベントでの広報活動の実施ですけれども、大型商業施設で自主イベント等を実施しております。昨年度は、イオンモール宮崎において、食と体と健康づくりに取り組もうをテーマにしたイベントを実施したところでございます。

（2）のイベント参加による広報活動の実施ですけれども、企業等が実施しますイベント等へ参加して広報活動を実施しております。昨年度は、国保連合会の健康イベント、また、しんきんチャリティーウォークなどに参加して広報活動を実施したところでございます。

（3）の出前講座による広報活動等の実施でありますけれども、企業や団体側から健康増進等に関する講座での広報活動等を実施しているところでございます。昨年度は、6つの企業や団体から申請等がありましたので、そこへ出向いて出前講座を実施し、186名が参加をしたところでございます。

これらの取組を通しまして、1130県民運動の普及啓発活動を推進しているところでございます。

説明は以上でございます。

○佐藤長寿介護課長 長寿介護課でございます。長寿介護課からは高齢者のスポーツの振興に向けた取組について御説明いたします。

資料の5ページをお開きください。

まず、1の高齢者へのスポーツ普及の意義に

ついてでございますが、高齢になっても誰もが生き生きと健康に暮らすことができる社会を実現するためには、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命を伸ばすことが大切でございます。

高齢者がスポーツに取り組むことは、個人の健康保持・増進、疾病の予防、介護予防等による健康寿命の延伸が図られることに加え、仲間づくりや生きがいづくりの場として、高齢者の社会参加の促進につながることを期待されます。

次に、2の宮崎ねりんピック、全国健康福祉祭でございます。

まず、(1)の宮崎ねりんピックの開催ですが、宮崎ねりんピックは、高齢者の生きがいと健康づくりを推進するために開催するスポーツ・文化種目を通じた競技会でございます。高齢者の方々が競技を通じて交流の輪を広げ、生きがいや健康づくり、仲間づくりを進めていくことを目的として、県内在住の60歳以上の方々を対象に平成9年度から開催しております。

開催当初は16種目、うち、スポーツ13種目で行ってございましたが、その後、徐々に増やしまして、現在は資料に記載の全29種目、うち、スポーツ26種目の競技で実施をされております。

残念ながら今年度は新型コロナの感染拡大防止のため、中止としたところでございます。

続いて、(2)の全国健康福祉祭への選手派遣でございますが、全国健康福祉祭は60歳以上を中心とする高齢者が主役のスポーツと文化の祭典でございます。愛称はねりんピックと申します。厚生労働省、開催都道府県及び政令指定都市、長寿社会開発センターの共催で開催されております。1988年に、厚生省50周年記念事業の一環として、第1回ひょうご大会が開催されました。以来、毎年、各都道府県持ち回りで

開催されておきまして、本県におきましては、平成8年に第9回みやざき大会が開催されております。

この全国健康福祉祭には、先ほど説明いたしました宮崎ねりんピックで優秀な成績を収められた方を宮崎県選手団として派遣しておきまして、昨年度のみやま大会には、118名を派遣したところでございます。

本年度は岐阜県において10月末に開催される予定でしたが、新型コロナの感染拡大防止のため、令和3年、来年の10月末へ1年延期となっております。

最後に、3の老人クラブのスポーツ活動への支援についてでございます。

(1)のさんさんクラブスポーツ大会は、高齢者みずからによる体力づくりを進めるとともに、スポーツを通じた会員相互の親睦と連帯感の高揚を図ることを目的に、平成14年度から開催されており、その開催経費を補助することで支援を行っております。

なお、さんさんクラブとは、宮崎県における老人クラブの愛称でございます。

(2)の市町村老人クラブ連合会への支援につきましては、スポーツ大会を含めた老人クラブの実施する健康づくり、社会奉仕、文化活動などの各種事業に補助を行いまして、高齢者自身の社会参加の機会の増加や健康の維持などを推進するため、支援を続けているところでございます。

長寿介護課からは以上でございます。

**○重盛障がい福祉課長** 障がい福祉課でございます。

障がい者のスポーツの振興に向けた取組について御説明いたします。

資料の7ページをお願いいたします。

まず、1、障がい者へのスポーツ普及の意義でございます。

障がい者スポーツの推進は、障がい者の生きがいや生活の質の向上、自立や社会参加の促進といった効果のみならず、共生社会の構築につながっていくものでございます。

ここにありますとおり、国の有識者会議におきましても、障がい者がスポーツを通じてみずからの可能性にチャレンジしたり、仲間とのコミュニケーションを深めることは生活の質を高め、人生をより豊かにするものであり、さらに、障がい者スポーツの推進は、障がいのない人への理解を促進し、障がい者と障がいのない人との交流を促進するものであると報告されております。

続きまして、2、県障がい者スポーツ大会、障がい者スポーツ教室の開催についてであります。

(1)の県障がい者スポーツ大会につきましては、例年、5月の第2日曜日に開催しており、平成14年から本名称で実施をしております。

表には、参加選手数、競技役員数、補助員数の過去4年の推移をお示ししております。ちなみに、令和元年度の参加選手数は1,466名となっております。競技役員数は約300名を超え、補助員数につきましても約250名と多くの方に支えられております。

実施競技は、陸上、水泳などの10競技でございます。

なお、本年度はコロナの影響で中止にしたところでございます。

続きまして、(2)障がい者スポーツ教室の開催についてであります。

表でございますけれども、これは、会場数と参加者数でございます。例年、15を超える会場

でスポーツ教室を実施しており、年々、参加者が増加をしております。令和元年度は1,001名の参加ということになっております。

実施種目でございますけれども、囲みにありますとおり、卓球バレーやフライングディスクなど、誰もが手軽に楽しめるものとしております。

続きまして、8ページになります。

3、全国大会等への選手支援についてでございます。

九州大会や全国大会等に出場する選手、または、障がい者スポーツクラブに対し、大会参加費の一部を助成しております。

続きまして、4、スポーツ施設のバリアフリー化についてであります。

県の、人にやさしい福祉のまちづくり条例に基づきまして、思いやりのある心づくりとバリアフリーの施設づくりを柱に、福祉のまちづくりの総合的な推進を図っており、バリアフリーの施設づくりを推進しております。

さらに、第4次宮崎県障がい者計画においても、県有施設のバリアフリー化などをより一層推進するとともに、市町村に対する助言を行い、障がい者に配慮した施設の整備・改善を促進することとしております。

次に、5、指導者育成の取組についてであります。

(1)は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が公認しております障がい者スポーツ指導員の養成でございます。

障がい者スポーツ指導員には、初級、中級、上級のランクが設けられておりますが、本県では、平成14年度から初級の障がい者スポーツ指導員の養成講座を実施しております。

過去4年の受講者数の推移につきましては、

表にお示ししているとおりでございます。

また、県外で開催がされております中級、上級の資格につきましても、参加費の一部を助成しております。

参考としまして、県内の公認障がい者スポーツ指導員養成登録者数の過去4年の推移を表にお示ししております。

最後に、(2) その他の取組といたしまして、主に、県外で開催をされております審判講習会や研修会等への派遣などを行い、指導者の育成に努めているところでございます。

説明は以上でございます。

**○窪菌委員長** ありがとうございます。

執行部の説明が終わりました。御意見、質疑がございましたら御発言をお願いいたします。

**○安田委員** 全国から見れば体力は、宮崎県は平均を上回っているようだが、詳しく教えていただきたい。

**○押川スポーツ振興課長** 全国の体力テストに対してということなんですけれども、ちょっとその前に1点、訂正をさせていただきませんか。

1ページの小中学校体育授業の充実支援の中で、(1) 体育振興指導教員等の派遣ですけれども、私のほうは20名と申し上げましたが、その資料にありますように21名が正しい数字でございますので、申し訳ありませんが訂正をさせていただきます。

それでは、体力の状況ですけれども、全国体力調査が小学校5年生と中学校2年生で行われております。

本県の昨年度の実績ですけれども、小学校におきましては、小学校5年生、男子で8種目ございますが、8種目のうち6種目が全国を上回っております。小学校5年生の女子では、8種目

のうち4種目、半分でございます。

また、中学校2年生ですけれども、中学校2年生の男子につきましては9種目ございます。9種目のうち、男子は8種目で全国を上回っております。中学校2年生の女性につきましては、9種目中6種目が全国を上回るということで、若干、小学校5年生の女性がちょっと全国レベルと、平均程度ですけれども、ほぼほかの種目では全国を上回るような状況ができているところでございます。

**○安田委員** そう考えれば、全国的に見れば、宮崎県の子供たちというのは、やっぱり全国でも上位のほうに入るんですね。

指定校に門川町が入っておりますけれども、やはり学校別で体力にバラツキがあるんじゃないかなと思うんですが、どうでしょうか。

**○押川スポーツ振興課長** 県内の各学校でも、やはり差がございますので、そういった状況を加味しまして、モデル校を通して、学校での取組をさらに推進していただくような取組をしております。

また、全ての学校で体力向上プランというのを作成していただいています、それぞれの学校の課題、それから、特色等を生かしながら、また、地域性等を生かしながら、体力向上プランに基づいて、児童生徒の体力の向上に取り組んでいただいているところでございます。

**○安田委員** 学校で体力が全然違う、レベルが違うような感じがいたしますので、そういうプランを出し合って、今後の体力向上に努めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

**○日高博之委員** 生涯スポーツの振興で、私は50歳なんですけれども、あと10年したらさんさんクラブに入るんだと思うんです。それまでには、

体をしっかり鍛えておかないといけないなということで、将来の健康寿命のためにも、今からやっておかなければいけないわけです。

SALKOの普及啓発に努めるということですが、ウォーキングで体や足を動かすことで、健康な体力を身につける、ということはあるんですけども、最近、スポーツ医学の中では、歩けばいいというものじゃなくなっているらしいんです。僕らの年代というのは時間があまりないから、歩くといっても、1時間、2時間も時間の余裕があるわけでもない。その中で何をするかというと、いわゆる筋力トレーニングです。例えば歩くよりもバックランジを20回を5セットしたほうが効果があるというのも、これも科学的に証明されています。それだったら、多分5分もあれば十分1時間歩くぐらいの消費はできる。

今、コロナもありますので、なかなか外に出づらい。特に高齢者は出づらいので、ほどよい筋力のトレーニング、または体幹のトレーニングというのが必要になってくる。SALKOもいいんですけども、そういった新たな、筋トレも取り入れた複合的な生涯健康づくりをしていくことは、さほど難しい話ではないと思うんですが、その辺はどう考えているかお伺いいたします。

○押川スポーツ振興課長 御意見ありがとうございます。

確かにSALKOアプリは運動するきっかけづくりということで、自分の健康等に関心を持っていただくスタートラインとして考えております。スタートに立っていただいた上で、さらにいろんな運動をすることで、みずからの健康づくりが進んでいくことになろうかと思えます。

特に、各市町村におられるスポーツ推進員と連携しながら、自宅のできる運動などを普及するための研修会等も実施をしております。

健康も含めた運動を、県民の皆さんにもっと進んで行っていただけるような機会づくりを私たちは進めていかなければいけないと考えておりますので、今、いただいた御意見等も含めまして、各市町村のスポーツ推進員の方々の活動にもそういう思いを伝えていきたいと思っておりますのでございます。

○日高博之委員 高齢になっても、70歳、80歳になったとしても、筋肉をつけることって大事らしいんです。これが非常に将来に大きいわけなんです。

県でやられているのは、児童生徒から中高年、また、高齢者にかけて、幅広い年代での生涯スポーツの振興ということだと思えます。今、機会づくり、とおっしゃっていたんですけども、機会づくりを始める年齢というのは、しっかりと押さえておかないと、高齢になって始めても、もう遅いんです。高齢になると、無理しすぎると逆に体力が弱る場合もあったりとか、骨がかけたりとかありますので。徹底的にやるんだったら、例えば50歳ぐらいから始めて、70歳ぐらいまでは背中が曲がらず病院にもかからなくていいような、その辺まで考えてみると面白いですよ。これをやったら日本初です。いつも二番煎じを走る宮崎県が、一番でそういうことをやれば、面白いでしょう。理学療法士やスポーツトレーナーの教える内容を、簡単に3分ぐらいにまとめてDVDにして配ってみたいですね。スポーツ指導員や各地域の体育指導員がいるといったって、現実的にはみんなが会えるわけではないですから、そういう方法を考えたかどうかと思うんですけども、どうでしょ

うか。

○押川スポーツ振興課長 御意見ありがとうございます。

やはりウォーキングで筋力をアップするためには食事が一番大事だということもありまして、ただ筋肉を動かすだけで、いわゆるたんぱく質を摂取しなければ筋力が逆に落ちていくというような研究もあります。ですから、運動と食事のバランスについても県民の皆さんに伝えていくことも重要なポイントではないかと考えております。

また、現在の県民の運動の実施率の調査を見ますと、子育て世代の女性の方々や、働き世代の男性の方々の運動実施率がどうしても低い状況がございます。そこにどうやってアプローチをしていくのかというところを、今、スポーツ振興課の中でも課題として取り上げておりますので、そういった事業を今後はしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

○日高博之委員 今、食の話が出て、なるほどなと思いました。歩くだけじゃなくて、短時間にある程度の消費カロリーを摂取するには、最低限これがどれくらい必要だとか、そういうこともやっていけば、宮崎県はその部分についてはぐっと上がります。教育長が研究をしてやっていくべきだと。こういうことを、県民を上げてやるのはすばらしいことだと思うんです。

○日隈教育長 日高博之委員のおっしゃるとおり、歩くだけではということで筋力の話もありましたけれども、福祉保健部の健康増進課が所管になるんですが、今日は来ておりませんので、私のほうから少し説明をさせていただきます。

ロコモ対策ということで、宮崎大学医学部整形外科の帖佐教授が中心になられていて、福祉保健部のほうで所管しております。全ての関節

や筋肉、これは整形じゃなくて今は運動器科学と称しているそうでして、大学によっては整形外科ではなくて運動器科という位置づけにしているそうですが、全ての体の運動器を健全に維持していくということが、やはり健康にも重要であるということで、全市町村の保健師さんを活用して、今、ロコモ対策ということで、DVDも作っております。老いも若きも体の関節、アキレス腱とか、太ももから胸筋まで、全ての筋肉を動かして1日30分とか、体操、運動もしましょうというもので、教育委員会のSALKOなどのスポーツの健康対策とは別に、いわゆる健康を維持していくという観点での取組も、進めているところです。

いずれにしても、これから国体に向けて、このスポーツ医学の関係については一緒に進めてまいります。宮崎県は、実は健康の優秀な県ではありません。健康維持のためにも、運動を利用して、体の筋肉や関節をしっかり維持していけるようにして、高齢化社会に向かっていくということを並行して進めていく必要があると思いますので、スポーツ医学と一緒に今後は進めていくことになろうかと思っております。

教育委員会のほうでも、私どもは子供たちを対象とした教育の場ということでもありますけれども、青年のスポーツまでを含めて所管しておりますので、スポーツから健康に含めたスポーツ医学の観点から健康維持の対策ということで、福祉保健部と連携を取りながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○日高博之委員 ぜひよろしくお願ひいたします。知事もスポーツをされるみたいなので、やっぱりそういうのを生かさないといけないです。何のためにトライアスロンをしているかもわか

らん、そういうのを生かしていかないとな、と思いますので、その辺はまた庁議とかで、教育長から知事のほうに言うておいてください。よろしくをお願いします。

**○渡辺委員** スポーツ振興課にお伺いをします。総合型地域スポーツクラブについて、目標としていた県内の全ての市町村での設立はできたというところだと思いますが、クラブの財政を考えたときに、例えばスポーツ振興くじの助成金とかというのはあつという間に切れてしまうわけですから、その後、継続的にクラブ運営ができるかというのが最大の課題だろうと思っています。そこについて、県の教育委員会としては、現状認識を含めて、どのように考えているのかお伺いをしたいと思います。

**○押川スポーツ振興課長** 総合型地域スポーツクラブへの支援につきましては、現在のところ、指導者の資質向上、養成等に関する研修会を実施しているという状況でして、運営の支援というところは、現状、行っていないところでございます。

各市町村によっては、業務を委託したり、事業を委託したり、補助したりということで支援をしているところもあると聞いておりますけれども、県として一括してというところは、現在のところ、行っておりません。

ただ、やはり地域スポーツの担い手として必要な人材の方々ですので、どのような形で支援ができるかということにつきまして、クラブ連絡会議等も実施しておりますので、要望等も聞きながら、今後のあり方を考えていきたいと思っております。

**○渡辺委員** 支援が行われているか否かということを知りたいというよりも、文部科学省が旗振りをして、宮崎県としても各市町村に最低1

つのクラブを、ということで支援をしてきたわけです。支援のメニューのありなしということよりも、作ってきて一定の数までいった総合型のクラブの現状認識を県教委としてどう思っているのか知りたいです。

熱心に行っているところほど、市町村のメニューだったり、一部は学校体育を支える人材の供給とかを含めて努力して、何とかクラブ運営を頑張っているという状況だろうと思うんです。会費収入だけでやられているクラブはほとんどないだろうと思いますから、現状、みんなそんなふう工夫している中で、それぞれのクラブが抱えている現状を県教委としてどう認識しているのかということをお伺いしたいという意味です。

**○押川スポーツ振興課長** 失礼しました。

各総合型地域スポーツクラブの皆さんは、それぞれのクラブが置かれている課題につきまして、しっかりと取り組んでいただいております。

ただ、本年度のコロナ禍においては、やはり会員がなかなか増えない、また、事業ができないということで、収入等も減少傾向にあるということは伺っております。

そういった中でも、各クラブで工夫して取り組んでいただいているということについては、大変感謝をしているところでございます。

**○渡辺委員** もう1点だけ確認しますが、県内の56のクラブを押し並べてみて、全てに当てはまるのは難しいかもしれませんが、クラブサイドで見たときに最大の課題は何だと県教委としては見ているんですか。

**○押川スポーツ振興課長** やはり運営費の確保、会員数の確保というところが一番の課題と考えております。

**○渡辺委員** ありがとうございます。もう1点、お伺いしたいと思います。

56クラブができていくということですが、総合型という名にふさわしいといえますか、子供たちから高齢者まで、いろんなスポーツの受け皿として——少子化だったりするような状況の中で、地域それぞれでいろんなスポーツを単独でやっていくことも難しいから、総合型が受け皿となって地域の中にいろんな選択肢があるというのを維持していけるように、というのも理念の1つだと思います。実際、県内の56のクラブを見たときに、ちょっと抽象的な聞き方になりますが、総合型という名前のニュアンスに適しているというか近い状態にあるクラブと、そうではなくて、単一のスポーツに近いような形の総合型もあるような気もするのですが、その辺の状況についてはどんなふうに考えていらっしゃいますか。

**○押川スポーツ振興課長** 確かに委員がおっしゃるとおり、クラブによって現状は異なります。どうしても高齢者を中心とした活動になっているクラブもございます。地域性もございますので、そういった地域の課題についてどう対応するかを、それぞれのクラブが工夫しながら事業や教室等を行っているところでございます。

**○渡辺委員** よしあしというわけじゃなく、タイプが違うという意味でいいんですけれども、いわゆる総合型という名前のイメージにジャストフィットするようなクラブは、この56のうち、県内にどのくらいあるというイメージで捉えていたらいいですか。

**○押川スポーツ振興課長** 総合型という名称にふさわしいかどうかというのは、具体的にどこでラインを引くかというのは難しいんですけれども、現状のクラブの状況から見ますと、半数あるかどうかではないかと感じているところで

**○渡辺委員** 文教警察企業常任委員会の議論とか、国スポに向けての議論でも出てきているんですが、先生方だけで学校の部活動を支えるのが大変になっていて、スポーツ少年団の指導者の方や教育経験のある方が、部活動の外部指導者として入っていくという支えの方向性が今できていっていますね。これとあわせて、総合型の理念がしっかり定着をすれば、理想を言えば中学校区ぐらい、大きな自治体ではそこまではいかないかもしれませんが、できていくのが本当は望ましい。そうすれば、例えば中学校の部活動、小学生も含めて支える受け皿になっていく、というのが、もともとは描いた方向性なのかなと思っています。

そこで、現状として、とりあえず中学校の部活動に限ったときに、どういう支え方の連携ができていて、今後、強化をしていきたいとか、——例えば中体連に参加するには、個人で入れるのか、部として認めるのかとかいろいろな方法があって、広域的な連携も必要なのだろうと思うんですが、その辺のお考えをお伺いできればと思います。

**○押川スポーツ振興課長** 現在、総合型地域スポーツクラブの指導者の方々が、各中学校の外部指導者や部活動指導員としてかかわっていただいているところもございます。

ただ、中学校の部活動等で1つネックになるのが、昼間働いていらっしゃる方も指導者にいらっしゃいます。そうすると、どうしても夕方から毎日練習を見れるのかということですか、また、指導者の方々が土日に部活動に専念できるのかということもありますので、そういった課題も含めて解決をすべきことが多々あるかと考えております。

そういったことから、今後の部活動のあり

方につきましては、総合型地域スポーツクラブの皆さんの御意見も伺いながら、お互いに連携できるところ、協力できるところを模索しながら進めていかなければいけないと考えているところでございます。

**○渡辺委員** ちょっと不勉強なので教えていただきたいんですが、例えばバドミントンを総合型のスポーツクラブでやっていますという子供たちが、中学校の中体連とかの大会に出場するときには、ほかのスポーツも含めてですが、どういう整理になっていけば中学校の名前で出れるのかを、教えていただければと思います。

**○押川スポーツ振興課長** 基本的に中学校体育連盟や高等学校体育連盟の主催する大会につきましては、学校長の承諾を得て出場することになりますので、各学校の校長先生が認めれば出場できるという形になります。

ただ、そこの学校に部活動も、例えばバドミントン部もあるとなると、総合型でバドミントンをやっている子供たちを、そこで一緒に出すかといったときには、解決しなければいけない課題等も出てくるかと思えます。そういったところも含めて、今後の部活動のあり方について、しっかりと検討する必要があるのかなと考えているところでございます。

**○脇谷委員** 今の総合型の関連でいいでしょうか。

この（１）のクラブや市町村訪問について、クラブ運営に対する支援やクラブ育成に向けた支援を目的に実施されたと書いてあるんですけれども、実施をされている方が1人とお聞きしています。先日、総合型の方から、このアドバイザーから助言も何もなくて、ほかのスポーツクラブで何のスポーツをやっているかもわからないらしくて、ちゃんと統計を取っているのか、

と言われたんですけれども、これに関してはどうなんでしょうか。

**○押川スポーツ振興課長** 総合型地域スポーツクラブの、県としての窓口になるのが、今言われたクラブアドバイザーという方で、県のスポーツ協会の職員として配置をしているところでございます。この方を中心に、総合型地域スポーツクラブの支援等を行っているわけなんですけれども、スポーツ指導センターを広域スポーツセンターと位置づけて、スポーツ指導センターの職員も含めて訪問等をしているところでございます。ですから、どうしてもクラブアドバイザーを中心にはしてはいますけれども、訪問等も含めて、複数の職員で対応はさせていただいているところでございます。

**○脇谷委員** 3つぐらいのクラブに聞いたら、全部そのお一人の方がそこを回っているということなんですけれども、その方はお一人ということではよろしいんですか。

それと、その方はどこのクラブが何のスポーツをしているかというのもさっぱりわからなくて、まず統計を取っていないというので不信感があって、アドバイザーの存在として目的を達しているのかと聞かれたんですけれども、どうなんでしょうか。

**○押川スポーツ振興課長** 県ではこういうリーフレットを作っています、それぞれのクラブの紹介等もしております。また、どんな活動をしているかも記載をしてありますので、クラブの活動状況等もこれでわかります。

また、ホームページ等にもこれは掲載しております、各スポーツクラブのホームページともリンクをさせていただいているところですので、そういった点では、各クラブの取組については把握ができると考えているところでござい

ます。

**○脇谷委員** いや、ホームページはもちろんあるし、そのパンフレットもあるのは御存じなんでしょうけれども、アドバイザー自体が知らないというのと、あと、実態を知らない。つまり、ホームページに載っているけれども、結局、先ほど半数とおっしゃったけれど、その半数は実態があるかないかわからないようなところもあるんじゃないかということと、やっぱりスポーツクラブを把握されていないんじゃないかというふうに、結局、このアドバイザーを通してスポーツ振興課の皆さん方が実態を把握されていないんじゃないか、自分たちが置き去りにされているというか、先ほど課題として運営費の確保があると言われたけれども、その課題に対する取組が本当にできているんだろうかという心配というか、不安があるんじゃないかと思っています。

ですから、先ほど渡辺委員がおっしゃったように、総合型の方々は、会員数が少ないし、会費も少ないので、自分たちで一生懸命やっているけれども、それを県から支えていただいているんだろうかと、ひしひしと感じるんですけども、それについてどうでしょうか。

**○押川スポーツ振興課長** 先ほどの資料の中でもありましたクラブ連絡会議等も実施しまして、各クラブの状況等もお伺いしながら、今、どんな支援が必要か等についても把握をしているところでもありますし、また、先日は私も直接クラブの方とお会いしまして、お話等も聞かせていただいて、課題等も聞かせていただいたところでもあります。

クラブの方がどういう思いをしているかというところに耳を傾けながら、今後の事業に生かしていきたいと考えているところでございます。

**○脇谷委員** ぜひ総合型の方々の意見をお聞きいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

それと、もう1点いいでしょうか。

先ほどのSALKOの話なんですけど、実はそのSALKOのアプリを私も取りまして、これはいいものだったんですが、女性はスマホを持って歩かないんですね。今やスマートウォッチを使うような状況ですよね。1万歩歩いたとか何とか、出産した娘も言っているんですけども、SALKOが一体どの年代を対象にされているのかというので、アプリですから、年配の方はスマートフォンを持ってなければやらないでしょうし、若い人はスマホを持って歩かないでしょうし、一体、今の社会に合っているんだろうかと不思議に思っております、それが1点です。あともう一つは、利用状況をお聞きしたいです。

**○押川スポーツ振興課長** 現在はそういう万歩計の機能がついたものがたくさんございまして、このSALKOだけに頼る時代ではないかなとは思いますが、日ごろ運動していない方々に、運動するきっかけづくりとしてこのSALKOを紹介をさせていただき、運動につなげていければと考えております。

実際にSALKOの登録者を見ますと、20代から50代が約78%、約8割近くが20代から50代の方々であります。また、現在、令和元年度の状況で2万5,000人を超える登録者がいらっしゃる状況であります。

**○脇谷委員** 登録は私もしたんですけども、実際に全然使っていないんですけども、実際の利用状況というのはどうなんですか。歩数の順位が出ますよね。その順位というのは、聞くところによるとスマホを振っていれば順位が上がると

聞いたんです。それはないだろうと思っているんですけど、実際に利用されている方はどれくらいいらっしゃるんでしょうかね。

**○押川スポーツ振興課長** 正直申しまして、登録者数というのは把握ができますが、利用されているかどうかについては、今のところ把握をしておりません。登録はしているけれども、全然歩数が増えない方は、おそらく利用していないと見ることはできると思うんですけども、そこまでは把握をしている状況はございません。

**○脇谷委員** SALKOもいいんですけども、社会に応じたアプリでないような気がするんです。女性対象だったら持って歩かないので、これがいいというのは言えないんですが、ちょっと考えていただくといいかなと思っています。教育長は使っていらっしゃるんでしょうか。

**○日隈教育長** 私は使っているんですが、うちの家内はオタクになっていて、市内でランキング2位というぐらい使っているようです。5キロ痩せたと喜んでおりました。

このSALKOは使いにくいということで、これまでもいろいろと改良してきているんですけども、今後もまた使いやすい方向で改良はしていきたいと考えております。スマホ以外にも使えるアプリなどについては、課題ということで、今後、検討してまいりたいと思います。

**○脇谷委員** ありがとうございます。

**○押川スポーツ振興課長** 解決策の1つとしては、現在、アップルウォッチへの対応について進めているところであります。そういった形で、毎年、バージョンアップをしながら進めております。

また、いろいろな、使っている方々の御意見等も参考にしながら、できるだけいい方向の改善が図れるように努力していきたいと思っております。

**○脇谷委員** よろしくお願ひします。

**○横田委員** 長寿介護課にお尋ねします。

私が住んでいる佐土原町では、老人クラブのクラブ数がどんどん減ってきているんです。間違いなく高齢者の数は増えているんですけども、何でクラブ数が減っているかということ、役員のなり手がいないから、もうやめようということになっているらしいんです。それで、県全体の老人クラブの状況はどうなっているかをお尋ねしたいんですけども。

**○佐藤長寿介護課長** お答えいたします。

今、委員御指摘のとおり、減少傾向にあるというのは事実でございます。統計を御紹介いたします。まず、全国と本県を比べますと、老人クラブの加入率は、全国におきましては、平成25年には15.8%でございました。宮崎県で同じく平成25年には13.3%の加入率でありましたが、一番直近の数字で平成31年3月の数字がございまして、全国が15.8%から12.2%、本県におきましては13.3%が9.7%ということで、本県は10%を切っている状況でございます。加入率低下の理由としましては、委員の御指摘の点もございまして、加入対象年齢の60歳を超えても現役で働いていらっしゃるとか、ボランティアとか、趣味のサークル活動をするなど、ライフスタイルの変化も影響しているのではないかと分析しているところでございます。

**○横田委員** いろんなスポーツをやっている高齢者が、自分自身が老人クラブに入らなかったら、県が支援をしている老人クラブ連合会のスポーツ大会があったとしても参加はしないですよ。

ですから、このまま行ったらジリ貧になっていくんじゃないかと思っておりますので、老人クラブそのものの充実発展といいますか、そちらにも

力を入れていかないと、これから厳しい状況になっていくんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○佐藤長寿介護課長 委員の御指摘のとおりでございまして、老人クラブの方々は、地域の見守りとか、そういう働きもされていらっしゃいます。連合会と連携を取って、加入される方を掘り起こす努力をしておりますけれども、なかなかうまくいっていないところがありますので、引き続き県の老人クラブ連合会とか、市の連合会とか、市町村それぞれの単位の老人クラブ等と連携を図りまして、加入率が下がらないように引き続き努力していきたいと思っております。

○横田委員 ちょっと確認させていただきたいんですけれども、クラブ数は減ってきているということが分かりましたけれども、高齢者はずっと増えているわけです。全体の数といいますか、加入している人数、高齢者の数はどういう状況なんですか。

○佐藤長寿介護課長 老人クラブの会員数は、本県で3万8,387名でございます。

○横田委員 増減はどうなんですか。

○佐藤長寿介護課長 5年前の平成27年3月末が会員数が4万8,078名だったので、約1万人近くこの5年ほどで下がっております。

○星原委員 基本的なことをお伺いしたいんですが、総合型地域スポーツクラブの育成支援に向けた取組ということで、3ページの一番上に書いてあるんですけれども、これは県と市町村とのどちらが主体で動いているんですか。

○押川スポーツ振興課長 指導者の養成とか、クラブ設立に向けた支援というところについては、県が中心になりながら県のスポーツ協会等も含めて行っているところであります。

各市町村とクラブとのかかわりについては、

事業を委託したりという形での支援、補助したりという形の支援等を行っている市町村もありますが、市町村によって異なっている状況でございます。

○星原委員 多分13年ぐらい前に文部科学省がこういう形の取組を行って、県内に56クラブができていたということなんですけど、その活動状況はどういうふうに見たらいいんですか。

○押川スポーツ振興課長 それぞれのクラブで工夫しながら行っていたいております。クラブによってはNPO法人化してクラブの運営を行っているところもありますし、先ほど申したように、各市町村の委託や補助を中心にしながら行っているクラブもございます。それぞれクラブによって活動状況は異なるところでございます。

○星原委員 県の支援という形でここに出ているんですが、県としては、この総合型スポーツクラブに対しての育成支援費というのは、どれぐらい年間予算を組んでいるんですか。

○押川スポーツ振興課長 育成促進に係る予算としまして、100万2,000円を予算化しております。主にクラブ連絡会議の開催費、また、クラブマネージャー養成講習会等の講習会の開催にかかる費用となっております。

○星原委員 私は、実は総合型スポーツクラブにちょっと関係しているから言うんですけれども、高齢者のスポーツの振興の中で出てくる健康寿命を延ばしていくために、スポーツを通じて、どうやって医療費の削減などを図るかが最終的な目的じゃないかと思うんです。要するに元気で長生きということが、総合型スポーツクラブの活動だとか、高齢者のスポーツ振興というのは、そのためにどういう形の取組をしていくかという、しっかり目的を立てて、その中で

活動をしていくような形の支援の仕方を考えていくべきじゃないかと思うんですが、その辺はどういうふうに捉えたらいいんですか。

**○押川スポーツ振興課長** 各総合型地域スポーツクラブの中には、各市町村が行う介護予防などを含めた事業についても、委託や補助を受けながら行っているところもございます。

ただ、どうしても、総合型地域スポーツクラブは教育委員会が所管をしていますが、健康福祉のほうは所管が違いますので、情報がうまくつながっていないところもあるのではないかと思いますので、県も各市町村においても、そういった連携が図れるように努めていかなければいけないと考えているところでございます。

**○星原委員** これから地域の中で指導者をどう作っていくか、だろうと思うんですが、こういうスポーツクラブや中学校の部活動において、指導者には、定年退職された体育関係とか学校の先生たちを活用していくべきじゃないかと思うんですが、その辺に向けてはどのような考えがあるんですか。

**○押川スポーツ振興課長** 委員がおっしゃいました通り、そのあたりがこれからの大きな課題であると捉えております。

そういった、定年等を迎えられた方々の次の活躍の場として、総合型地域スポーツクラブもあるということを周知をしながら、指導者として次の世代でも頑張ってもらえるような仕組みづくりも考えていかなければいけないとは考えております。

**○星原委員** ぜひ、そういう形の方向性を作っていただきたいです。やっぱり指導者がいないと参加者もなかなか集めにくいんです。参加者が多くなってきて、そこでスポーツだけでなく、触れ合いとか、意見交換というか、いろん

な情報をお互いに交換し合える場になることが、元気で長生き、健康寿命を延ばしていく、医療費の削減、そういった方向につながっていくと思うんです。そういう方向に進めたときに、どれぐらいの医療費が削減できるかというのは、なかなかデータが取れないのでわかりかねますけれども、やはり、そういう目的で、生涯スポーツというものはあるんじゃないかと思います。ですので、指導者が不足しているようであれば、指導者を登録制度にさせていただいて、登録している人たちに声をかければ協力をもらえる、支援をもらえる、といったことにつながっていけばありがたいので、その辺の研究も少しさせていただくとありがたいかと思います。

もう1点、私も関わっていて思っているのは、今、県内にもパークゴルフ場がいっぱいできていると思うんですが、先ほどウオーキングの話も出ましたけれども、パークゴルフ場に行って、歩くだけじゃなくて本人が数字を追っかけたり、他人との競争をしたり、あるいは四、五人のメンバーでいろんなことを話しながら回るといったことも、ボケないというか、健康寿命につながっていくと思うので、もう少しそういった点についての支援なども考えてもらおうと、まだまだ参加者も増えてくるんじゃないかと思うんです。

また、さんさんクラブの大会について、高齢者は増えていっているはずなのに、参加者が少なくなっている原因が何なのかと考えると、やはり遊びながら、楽しみながら、人と競争しながら、そういった形ができるスポーツも考えていくべきじゃないかと思いますので、もう少し検討をしたり、研究していただければと思います。

**○高橋委員** 1130県民運動ですけれども、これ

はいつからの取組ですか。

○押川スポーツ振興課長 資料を持ち合わせていないんですけれども、平成26年度からではなかったかと記憶しているところです。

○高橋委員 約6年ぐらい経過をしているんですけれども、県民への定着なり、認知度というところを聞かれると少し疑問もあるところなんでしょうけれども、去年のいろんな実績、活動を見ると、どうも市街地中心かなと思います。イオンモールがない田舎から見るとそういうことなんですけれども、(2)の国保連合会とか、しんきんチャリティーも恐らくどこか1か所でやったのではないかと思うんです。あと、企業の6団体なんかも中山間地に企業があるわけじゃないでしょうから。なので、26市町村で何らかの県民運動の推進をどう図っていらっしゃるのかということ、まずお尋ねします。

○押川スポーツ振興課長 各市町村につきましては、先ほども申しましたスポーツ推進員の方々が中心で行う事業、また、市町村が行う事業等の際に、この1130県民運動の、例えば1130体操を実施したり、ウォーキングアプリSALKOを御紹介したりといったような取組を行っているところでございます。

○高橋委員 事業にはそれなりの事業費も入っていると思うんです。村なり、町なんかの行事で、スポーツ指導員の方に啓発をしてもらうことになるんでしょうけれども、いろんな企画に参加をしてもらうためには事業費がいるわけですから、そこら辺をもう少し中山間地にも目配りをしながらやっていただくと、この1130、中山間地にも根付いていくのかなという思いがあります。ぜひ検討してみてください。

○押川スポーツ振興課長 各市町村を訪問する際には、そういったところも含めて、どういっ

た連携、協力ができるかも相談しながら進めてまいりたいと考えております。

○窪菌委員長 ほかにございませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、ほかに質疑はないようですので、これで終わりたいと思います。

執行部の皆さん方には御退席いただきまして結構でございます。お疲れさまでございます。ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

午前11時15分休憩

---

午前11時16分再開

○窪菌委員長 それでは、委員会を再開いたします。

協議事項(1)でございます。県内調査についてであります。

資料1を御覧ください。日程でございます。

当初は県外調査を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況により、同日程で県内調査を実施する予定でございます。

中止になりました県南調査、県北調査について、調査予定となっていました調査先を中心に御覧のような日程案を作成しました。

まず、10月12日ですが、日章学園高等学校を訪問します。日章学園では、競技力の向上、維持のための環境整備面の取組等について調査する予定でございます。

次に、小林高校を訪問し、競技力強化指定校としての取組等について調査する予定でございます。

調査後は小林市内に宿泊予定です。

翌13日、2段目ですが、まず、延岡市役所を訪問し、アスリートタウンのべおかの取組につ

いて調査する予定であります。

続きまして、延岡星雲高校を訪問します。未普及競技の指導に当たっての課題等について調査する予定であります。

調査後は延岡市内に宿泊予定でございます。

翌14日、3段目ですが、一般社団法人ツノスポーツコミッションにスポーツによる町おこしについてお話を伺いたいと思います。

次に、木城町のいしかわうちを訪問いたします。スポーツ合宿施設いしかわうちの見学のほか、スポーツ合宿の受け入れに関する課題について意見交換を行う予定でございます。

最後に、新富町役場を訪問します。スポーツによる町おこしについて御紹介いただくほか、国民スポーツ大会やスポーツ合宿の受け入れに関する課題について意見交換を行う予定でございます。

県内調査につきましては、調査先との調整もある程度進めておりますので、できればこの案で御了承いただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 異議なしということで、それでは、そのように決定いたします。

なお、諸般の事情により、若干の変更が出てくる場合もあるかもしれませんが、正副委員長に御一任いただきますようお願いいたします。

なお、調査時の服装につきましては、夏季軽装にてお願いいたします。

次に、協議事項（2）次回委員会についてでございます。

次回の委員会につきましては、10月27日火曜日の開催を予定しております。内容については、田中書記のほうから説明を受けたいと思っております。よろしく申し上げます。

○田中書記 失礼します。次回の委員会の内容についてですけれども、スポーツに関連する周辺産業ということで、執行部に説明を依頼してはいかがかと考えております。

具体的に申し上げますと、商工観光労働部で取り組んでおりますアスリートフードの開発やスポーツヘルスケアビジネスプランの支援事業といった事業ですとか、県土整備部が自転車活用推進計画を作成するなど、サイクルツーリズムに関する取組をしておりますので、そういった事業について説明を依頼してはいかがかと考えております。

以上です。

○窪菌委員長 よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、特にないようですので、次回の委員会の内容につきましては正副委員長に御一任いただきまじたいと存じますがよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのような形で準備させていただきたいと思っております。

最後に、協議事項（3）その他でございますけれども、委員の皆さん方から何か御質問等ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 ないようでございますので、次回の委員会は、先ほども申しましたように10月27日午前10時から予定をしておりますのでよろしくお願いをいたします。

それでは本日の委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前11時22分閉会

署 名

スポーツ振興対策特別委員会委員長 窪 菌 辰 也

